タイトル

　広報で皆さんに伝えたいことがあります

タイトルリード文

　市では市民のまちづくりへの参加・協力への機運を高めるために市の取組を広報していますが、人口減少による財政難や社会の支え手の不足が予想されるなか、市民のまちづくりへの参加・協力をもっと盛り上げる必要があります。皆さんは今までにこれらの情報に触れ、何か感じたことはありますか？今回は、市が行っている広報についての課題や考えをご紹介します。

広報の種類と特徴は？

　　市が広報で使用するツールは、広報紙とホームページです。広報紙は市から各ご家庭などのポストに毎月月末までに翌月号としてお届けしており、ホームページは市の情報を知りたいときに使っていただいていると思います。それぞれ効果については特徴がありますが、市では次のように課題と捉えています。

⑴　広報紙については、紙面に対して掲載したい情報量が多すぎる。

⑵　ホームページについては、ほぼ全ての情報が網羅されているが、情報量の多さにより、必要な情報に到達しづらくなる可能性がある。また、市民が情報を取りに来たときに効果を生むため、ＳＮＳのようなプッシュ通知による情報発信ができない。

最近の取組は？

広報紙については、限られた紙面のなかで、市が進めている「市民主体のまちづくり」をより一層推進するため、また、市が抱える課題に対して市民に関心を持っていただくため、2020年3月号から掲載する情報を選び、特に市が重要な課題として認識している記事※を多く掲載しました。

※　過去扱ったテーマとしては、市民主体のまちづくり（2021年8月号P10，P11）、各小学校区まちづくり協議会（2022年7月号P8，P9）、ガバメントクラウドファンディング（2022年5月号P11）、避難行動（2022年2月号P10，P11）等がある。

ホームページについては、2020年12月からスマートフォン利用者の増加を考慮し、スマートフォンで見やすいデザインとし、検索による情報入手を重視したデザインとしました。

ＳＮＳの活用については、中部電力と協力して「子育て支援アプリ」を用い、行政だけではなく民間NPOが取り組む子育て支援に関する情報も含め情報発信を行っています。また、令和４年１月から市公式LINE利用し、新型コロナワクチンに関する情報を配信できるようにし、それに限らない情報発信を今後検討しています。

それでも伝えたい情報が伝えきれない！

　　昨今市民が情報を入手する方法が多様化する中で、様々な世代が使いやすいツールで情報を入手できるよう対応する必要がありますが、限られた人員や予算のなかで効率よく広報していく必要があります。

その一方で、市で情報は用意できても、市民の皆さんの目にとまり関心を起こさせなければ情報は伝わったことになりません。

広報を効果的に使って長久手を楽しんでみませんか？

　　各ご家庭などへ配布される広報紙は全ての世代の情報の入り口として、ＳＮＳは若年層の情報の入り口として、まず市の取組に興味関心を持っていただけたらうれしいです。そこから情報を網羅しているホームページで詳しい情報に触れていただき、いっしょに長久手のまちづくりを楽しんでみませんか。